



EX-PRESS

EXtra, EXpert and EXtreme

2005 Vol.

1



JSB 1000
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

3年ぶりの全日本開催 MINEサーキット

ポールポジションは念入りなテストを繰り返してきた中富伸一

桜前線の通過とともに、全日本ロードレースが開幕した。開幕戦となった、ここMINEサーキットでの全日本開催は、2002年以来となる。春の暖かな日差しの下では汗ばむこともあるが、冬の名残りの冷たい風が吹くと、ジャケットをもう1枚着たくなるほど肌寒い。

昨年のチャンピオン、井筒仁康が引退、プロゴルファーを目指す記者発表があった。昨年チャンピオンのないシーズンとなった。

井筒の引退をはじめ、JSBクラスでは顔ぶれが多少変わってきた。2003年のチャンピオン、北川圭一は全日本を離れ、今年はフランスのチームから耐久選手権に出場している。先週行なわれたオランダ、アッセンでのレースで早くも優勝し、耐久チャンピオンへの第一歩を踏み出した。

彼らの代わりにJSBに参戦する新しい顔ぶれとして、井筒の代わりにGP250から亀谷長純がチーム桜井ホンダから参戦、同じくGP250から中須賀克行(SP 忠男レーシング

チーム)、藤岡祐三(ENDURANCE)の二人が、また今野由寛(Moto Map SUPPLY)がST600からスイッチしたほか、世界GPから戻ってきた松戸直樹(モリワキMOTULタイガーレーシング)が参戦するなど、話題には事欠かない。

金曜日の合同走行では、中富伸一(YSP&PRESTOレーシング)が光る走りを見せてトップタイム。中富は土曜日の予選も絶好調で、予選1回目から1分24秒462とコースレコードをたたき出す。2002年の全日本では、スーパーバイクとJSBの混走だったため、コースレコードとして残っているタイムはスーパーバイクのもの。中富は3年のプランクの後、JSBでスーパーバイクのタイムを破っている。レコードタイムを記録したのは中富一人。事前からテストを重ねてきた結果を見事に出すことができた。

予選2回目には、さらにタイムを縮めて堂々のポールポジション。予選中、常に中富に次ぐ

タイムをマークし続けていたのが伊藤真一(ホンダドリームRT)。グランプリではプリチストンのタイヤ開発ライダーとしてドゥカティを駆り、全日本ではCBRを駆るという超人的な2車乗りで予選2番手。予選3番手は、昨年のST600チャンピオンで今年もST600とのダブルエントリーの辻村猛(F.C.C.TSR)が僅差で続いた。金曜日の走行、予選1回目、予選2回目と常に4番手だった柳川明(Team GREEN)はグリッドも4番手。フロントロウはベテランが占める結果となった。予選2列目は森脇尚護(Team 高武RSC)、山口辰也(ホンダドリームカストロールRT)、亀谷、出口修(DyDo MIU Racing)と、ホンダ勢が並ぶ。モリワキがダンロップ、亀谷がミシュラン、山口と出口はプリチストンを履く。松戸の全日本復活レースは10番手グリッドからのスタートとなった。

[青木 淳]



楽しみ方いろいろ。 MFJ SUPERBIKEの情報満載



MFJ SUPERBIKE
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

GAORA(CS放送)で全戦放映!!
地上波ローカルTV局でもダイジェストを放映!
ブロードバンド動画サービスやライブムービーなども展開。
詳しくは、情報満載のオフィシャルファンサイト superbike.jp へ!!

JSB1000からスイッチした大崎誠之が ポールポジション! 決勝は混戦必至!!



一番の激戦クラスとなったST600クラス。開幕戦MINEのエントリーは63台。予選通過できるのが36台だけに、約半数が予選落ちとなってしまう。今年は、JSB1000から大崎誠之、徳留和樹がスイッチ。奥野正雄が伊藤レーシングに加わるなど、さらに選手層が厚くなってきている。

金曜日の走行では、徳留がただ一人1分28秒台に入れ、TSRに移籍した手島雄介が1分29秒フラットで続くなど、若い二人が

リードしていた。

公式予選が行なわれた土曜日は、午後から天気が崩れる可能性もあったが、土・日で2セットしかタイヤが使えないST600クラスだけに、1回目の予選でほぼ順位が決まる結果となった。ポールポジションを獲得したのは、1分28秒379をマークした大崎。「金曜日の最後で足回りの方向性が見えて、予選でうまく決まったので、やっと自分のスタイルで走れるようになった。予選2回目でも28秒台に入れることができたので、今のセッティングのままいこうと思っている。レースはドライでやりたいね」と大崎。徳留も2番手につけ、安田毅史、奥野正雄と続いた。ディフェンディングチャンピオンの辻村猛も5番手につけ、虎視眈々と勝利を狙っている。以下、RC甲子園に移籍した宮崎敦、沼田憲保、手島雄介とセカンドロウまでに蒼々たるメンバーが並んだ。

今回は、ダンロップ勢が好調で予選を1-2で終了。プリチストン勢では安田の3位が最上位だが“アベレージでは大丈夫”と自信をのぞかせている。タイムも僅差で並んでいるだけに混戦は必至。レース終盤、タイヤがタレてきてからのポジションが勝敗を分けるだろう。果たして開幕戦を制するのは!?

[佐藤 寿宏]

写真(上):大崎誠之 (下):徳留和樹

青山周平、世界へのチャレンジが始まる。 横江竜司がストップをかけられるか!?



世界選手権直結のクラスとして、今まで多くのライダーを育ててきたGP250だが、世界的な4ストローク化の波に押され、今回の開幕戦で出走しているのは24台とやや寂しい状況となっている。今年も、中須賀克行と藤岡祐三がJSB1000クラスにスイッチし、このクラスで優勝経験者はさらに減って青山周平、横江竜司の2人のみとなってしまった。

3年ぶりの開催となるMINEラウンド。コースレコードは横江が、やはり3年前に記録した

1分26秒642だったが、そのタイムは今回の予選で更新されることはなかった。ポールポジションを獲得したのは1分26秒776をマークした青山。「足回りを、もう少し詰めていきたくはあったけど時間がなかった。朝のウォームアップで足回りを確認できれば、決勝は26秒台でまわれるはずだし、一発ならば25秒台に入れることができるはず。優勝はもちろん、タイムにもこだわっていきたい」と青山は必勝宣言。

一番のライバルと見られる横江は1分26秒台に入れることができずに、1分27秒594で2番手。「足回りに問題があって気持ちよく走っていない。決勝は一発よりアベレージのタイムが大事。金曜日は27秒台でまわっていたし、問題が解決すれば大丈夫でしょう」と横江。ここ数年、開幕戦でケガを負っているだけに今年こそタイトルを狙うためにも着実にゴールしたいところか。3番手には全日本2年目の佐藤裕児が1分27秒745で続き、徳留真紀が1分28秒211で4番手となった。「まだ去年、負傷した足が回復しきれていないけど、決勝はトップ争いに絡んでいきたい」と徳留。レースは青山がスタートで飛び出せば独走となる可能性が高い。それを横江、徳留、佐藤などのTZ勢が青山を止めることができるのだろうか!?

[佐藤 寿宏]

写真(上):青山周平 (下):横江竜司

●MFJ SUPERBIKE EXpress執筆陣紹介●

- 【青木 淳】 「ライディングスポーツ」編集長。1982年から全日本の取材をしている。自らもレース参戦しているが、目標の全日本参戦はまだまだ先のことになりそう。鈴鹿8耐参戦経験もある45歳。
 【佐藤 寿宏】 名前に“寿”があるため業界でのニックネームが“ことぶき”というめでたいヤツ。モータースポーツジャーナリストの片隅に置いてやってください。今年もMotoGPにも参戦(※ライダーで)。
 【川岸 健二】 ロードレース専門誌「サイクルサウンドス編集部」に籍を置き、全日本ロードレース取材は今年で6年目。「取材は足で稼ぐ」をモットーに、今日もムダ足を踏んでいる。

2005年シーズンの火蓋を切るGP125。 V5王者の優位は変わらず!



およそ半年弱の沈黙を破り、このGP125クラスを皮切りに2005年の全日本ロードレース選手権が開催される。MINEでの開催は2002年以來の3年ぶり、特に中国地方のロードレースファンは心待ちにしていた瞬間だ。予選は1回目こそドライの条件下で行われたが、午後の予選2回目は開始後5分の段階で小雨が降り始め、タイムアップが難しい状況となった。その中、これまでに5回のタイトルを獲得

し、チャンピオンナンバーを付ける仲城は、ベテランの貫禄でタイムアップを果たし、終盤になって1分31秒733のポールタイムを叩き出した。仲城は「今年は排気バルブ付きになって2年目で、データが揃っていることが大きいです。MINEラウンドが再開したことは嬉しいですね。長いシーズンですけど開幕戦から勝ちたいです」と6度目のタイトルに意欲的だ。2番手は同じく最後の最後にタイムを上げたヤマハ勢のエース、井手敏男だ。ホンダ勢が多数を占める趨勢の中、ヤマハTZ125は出走34台中4台まで数を減らしてしまったが「ヤマハユーザーを増やすためにも自分は頑張らなければいけない」と仲城の追い落としを狙う。

3番手は山口出身の濱本裕基で、微妙なコンディションの中、地の利を生かした格好だ。予選1回目のトップだった柚木伸介は、そのタイムのままでフロントローを確保した。2列目には菊池寛幸、小室旭、山本武宏といった実力者が並んでいる。

気になる決勝レースだが、あいにく天気が危ぶまれており、金、土の走行ともほぼドライの走行だったことから考えると、荒れた展開になることも予想される。しかし天気がどうであれ、V5チャンピオンの絶対的優位が揺らぐことはないだろう。

[川岸 健二]

写真(上): 仲城英幸 (下): 濱本裕基

4/3(日)決勝日イベント情報

※詳細はイベント広場(メインスタンド上)にてお確かめください。
※イベントは変更または中止されることがあります。



平 忠彦の タンデムツーリング・ワンポイント レッスン&タンデムパレード開催

4月1日に高速道路における二輪車二人乗りが解禁されることを記念し、全日本ロードレース選手権開幕戦のMINEサーキットにタンデムにて来場された方に向け、タンデムツーリングを楽しく安全に行うためのワンポイントレッスンを、平 忠彦氏が行います。
●12:30~ コース上

ドゥカティ展示会

イタリアの名車ドゥカティの新車、レース仕様車、8耐参戦マシンの展示会を開催します。

サーキットクルージング(体験走行)

●17:00~(パドックトンネル入口に集合)
料金: 無料 ※50ccから参加OK。タンデム参加可

4月1日より二輪車の高速道路二人乗り解禁!!
タンデムツーリングでの来場を歓迎いたします。

Good Highway Manners
クルマもバイクも思いやり2倍

ミニバイクから世界GPまで
ロードレースのすべてがここにある

RIDING SPORT
SINCE 1982
毎月24日発売

2005年5月号 <No.268> は好評発売中!

株式会社ニューズ出版

CYCLE SOUNDS EXCITING
ROADSPORTS
MAGAZINE

月刊サイクルサウンズは
毎月24日発売

発行/株式会社ジック 発売/株式会社山海堂

SUPERBIKE SUPPORTERS
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

あなたへの観戦スタイルにあった4種類のチケットで、今年も国内最高峰のロードレースをお楽しみください。
オフィシャルファンクラブがSUPERBIKE SUPPORTERSとして新しく生まれ変わり、さまざまな特典のついたパスを販売しています

詳しくは、
SUPERBIKE SUPPORTERS事務局
TEL: 0285-45-8465(AM11:00~PM7:00 月曜定休)
またはオフィシャルファンサイト superbike.jp まで

GP125 Class Starting Grid

●予選日天候/晴 ●コース/ドライ ●コースイン/10:25 ●決勝スタート/10:40(20周)

GP125 Class Starting Grid table with 9 rows and 4 columns of rider data including names, numbers, and times.

ST600 Class Starting Grid

●予選日天候/晴 ●コース/ドライ ●コースイン/11:35 ●決勝スタート/11:50(20周)

ST600 Class Starting Grid table with 9 rows and 4 columns of rider data including names, numbers, and times.

※Rマークはコースレコードを更新。従来のレコードタイムは1'29.966

JSB1000 Class Starting Grid

●予選日天候/晴 ●コース/ドライ ●コースイン/14:20 ●決勝スタート/14:35(24周)

JSB1000 Class Starting Grid table with 7 rows and 4 columns of rider data including names, numbers, and times.

※Rマークはコースレコードを更新。従来のレコードタイムは1'24.714

GP250 Class Starting Grid

●予選日天候/晴 ●コース/ドライ ●コースイン/15:35 ●決勝スタート/15:50(20周)

GP250 Class Starting Grid table with 6 rows and 4 columns of rider data including names, numbers, and times.